



ふ れ あ い  
市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

地域の資源を生かすビッグプロジェクト

「地域の資源を生かした地元産業の活性化」は市長就任以来、掲げてきた市政の5つの柱の中の一つです。世界遺産登録をめざす鳴門海峡の渦潮、日本水仙三大群生地の一つ灘黒岩水仙郷、日本の夕陽百選の慶野松原、質の高い温泉などの魅力ある資源を有する本市にとって、「観光」は最も伸びしろの大きい産業の一つです。さらに、食料自給率100%を優に超え、「御食国」のブランドを支える、豊かな第一次産業との融合により、見て、食べて、交流するという体験型、滞在型観光を実現し、双方の付加価値を一層高め合うことができます。

2025年の大阪・関西万博がすぐそこに迫ってきました。約2,800万人を超えると予想される来場者を淡路島に呼び込み、淡路島観光の起爆剤となるよう、淡路島総合観光戦略のもと、ストーリー性のある観光や印象に残る体験の提供など、島内一丸となって「選ばれる観光地」となるよう、淡路島3市で連携して取り組んでまいります。

また、本市でも、この好機にあわせ、観光施設のリニューアルなどビッグプロジェクトに取り組んでいます。



うずまちテラス 灘黒岩水仙郷の完成イメージ図

大鳴門橋周辺では、鳴門海峡周辺をパノラマで一望できる絶景「うずまちテラス」が3月4日に竣工を迎えます。「道の駅うずしお」も令和7年春の再開をめざし、まったく新しいデザインで生まれ変わる予定です。また、皆さんの中には、1月3日の新聞の一面に掲載された「大鳴門橋自転車道着工」の記事をご覧になった方もいるのではないのでしょうか。兵庫・徳島両県は2023年度に事業に着手することを発表しました。これが完成すれば瀬戸内を1周する総延長500kmの「セイトチ」サイクリングルートとなる瀬戸内大交流圏が見えてきます。

今年12月のオープンをめざす灘黒岩水仙郷も再整備が着々と進んでいます。地元関係者等との意見交換の場でもいただいたご提案も取り入れ、現在、水仙シーズンはもとより、年間を通じた地域活性の場としても活用していく方針です。ご尽力くださった関係者の方々の思いのこもった、サイクリストからも喜ばれる拠点としてオープンできる日を待ち遠しく思っています。

「人が人を呼ぶ、何度でも行ってみたいくなるまち」の実現に向け、皆さまとともに進んでまいりたいと考えておりますので、引き続き、市政へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

退職教員による最終講義の実施

2月10日、今年度で定年退職する4人の教員による最終講義を実施しました。

講義では、各々が行ってきた研究内容だけでなく、自身の経験・思い出など、多様なテーマでこれから社会人になる学生たちに伝えたいことを限られた時間の中で話しました。講義室は熱心な学生であふれ、真剣に耳を傾けていました。

学生には、当日の講義や研究活動を今後の学生生活や社会人生活の中で生かしてご自身の生活が有意義なものになることを願っています。



多くの学生が参加した最終講義



オープンキャンパスのお知らせ

日時 3月19日(日) 13:00~15:30

場所 吉備国際大学南あわじ志知キャンパス

内容 学科紹介、ミニ講義、個別相談など

申込み・問合せ(要予約)

大学ホームページからの申込みもしくは電話予約  
入試広報室フリーダイヤル ☎ 0120-25-9944

※メールアドレスをお持ちでない人は電話でお申込みください。申込確認メールを受け取るにはお使いの機器を確認し、「PCから受信」できるようにしてください

受賞おめでとう

兵庫県こうのとりの賞

岩口 光代さん(倭文)

淡路消費者団体連絡協議会理事として、レジ袋削減や悪質商法被害防止などの活動に取り組みされました。

みどりの章

井本えり子さん(広田) 坂本 敦子さん(倭文)  
西久保文代さん(伊加利) 村上 洋一さん(潮美台)

地域で緑化活動に取り組み、花と緑あふれる美しいまちづくりの推進に貢献されました。



感謝状を手にするあわじ島農協の原口和幸組合長(左)と守本市長

あわじ島農協および全国共済農業協同組合連合会兵庫県本部から南あわじ市へ、

防災・減災の取り組みへ  
農協・JA共済から寄付

32万7200円の寄付がありました。寄付金は消防団の発電機の購入などに充てられます。寄付は、同県本部と県内農協の支援活動の一つ。防災・減災への取り組みとして、JA共済の新規契約に応じ、1件あたり100円を地方自治体に寄付しています。活動は3年間の実施が予定されています。



吉田さん(左)から手話を教わる児童たち

八木小で手話教室  
自己紹介やあいさつ学ぶ

八木小学校で1月19日に手話教室があり、3年生20人が参加しました。手話教室は、児童たちに手話や福祉の仕事に興味を持ってもらおうと開催されました。手話通訳ボランティアの吉田健二さん(洲本市)が講師となり、手話での自己紹介や聴覚に障害がある人の生活などを児童たちに

教えました。児童たちは、あらかじめ練習してきた指文字で自分の名前を伝えたり、「こんにちは」など手話でのあいさつを教わって実践したりしました。参加した坂本翔空さんは「初めて手話をした。耳の聞こえない人に会ったら手伝ってあげたい」と話していました。

淡路青少年交流の家と協定  
福祉避難所として活用



協定書を交わした国立淡路青少年交流の家の西岡所長(右)と守本市長

南あわじ市と国立淡路青少年交流の家(阿万)は2月9日、災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定を締結しました。災害時の施設利用について、交流の家から市に提案があり、協定締結に至りました。大規模災害時には高齢者や障害者、妊産婦など、避難生活で配慮が必要な人を受け入れます。最大

で330人の滞在が可能で、トイレや浴槽がついた個室もあります。同日、交流の家で行われた協定締結式で、守本市長と交流の家の西岡敬三所長が協定書に署名。守本市長は「福祉避難所の確保は課題だった。設備が整った施設を活用できることは心強い」。西岡所長は「2月24日に訓練も予定している。市と連携して実践的な教育の場としても機能できれば」と話しました。